

災害にも強い多文化共生地域づくり事業

～日常の付き合いを通し、災害時にも日本人と外国人が助け合える関係作りを目指して～

現状

地域社会とのつながりが弱い

- ・近所に住む日本人との会話が少ない
- ・自治会や地域活動の意義、行事等の情報が伝わっていない
- ・日本人住民も外国人住民へのアプローチ方法が分からない

日本語でのコミュニケーションの不足

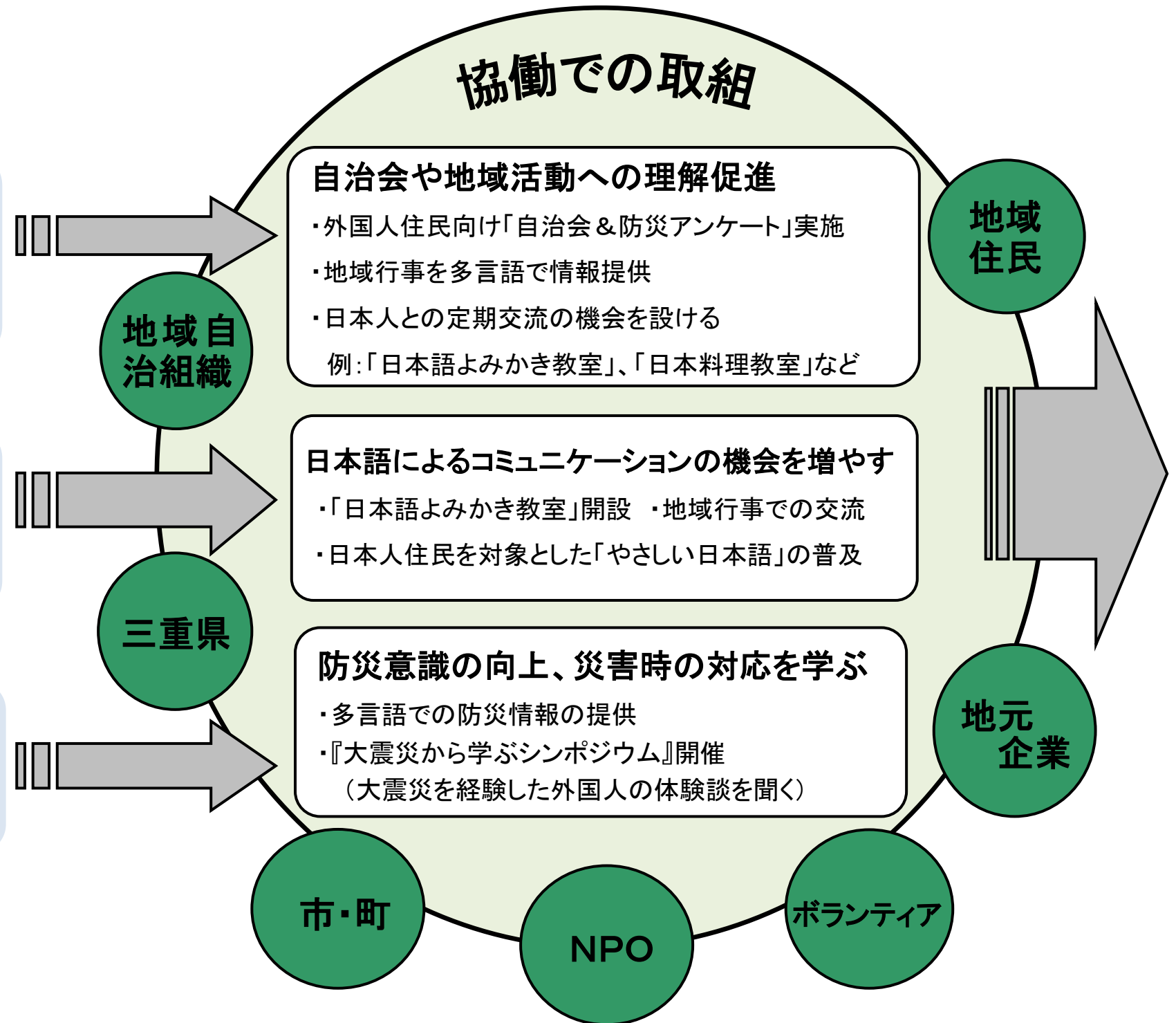
- ・日常生活で日本語を使う機会が少なく、上達しにくい
- ・日本人住民が「やさしい日本語」を話すことに慣れていない

災害の知識・経験の不足

- ・母国で地震や洪水を経験したことがない
- ・避難所の場所を知らない

もし大災害がおこれば、外国人は要支援者になってしまう。

協働での取組



災害時にも日本人と外国人が助け合える

《伊賀市の在住外国人》

伊賀市の外国人人口比率 4.57%(三重県第2位)

高い生産年齢人口比率

雇用機会が比較的多い